



標本に基づく鹿児島県本土初記録のヒメハナダイ (ハタ科：ハナダイ亜科)

橋本慎太郎¹・大富 潤¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

SH: k1028515@kadai.jp; JO: ohtomi@fish.kagoshima-u.ac.jp

²鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 04 August 2021

Revised 07 August 2021

Accepted 07 August 2021

Published 09 August 2021

DOI 10.34583/ichthy.11.0_6

Shintaro Hashimoto, Jun Ohtomi and Hiroyuki Motomura. 2021. First specimen-based records of *Tosana niwae* (Serranidae: Anthiadinae) from the Kagoshima mainland, southern Kyushu, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 11: 6–11.

Abstract

Three specimens (50.6–113.2 mm standard length) of *Tosana niwae* Smith and Pope, 1906 (Serranidae), distributed in the Western Pacific Ocean, were collected from Shibushi and Kagoshima bays, Kagoshima Prefecture, southern Kyushu, Japan. In Japanese waters, *Tosana niwae* has been recorded from Japan Sea coast of Toyama, Shimane and Yamaguchi prefectures, Pacific coast of Kanagawa Shizuoka, Mie, Wakayama, Kochi, and Miyazaki prefectures, Kagoshima Bay, Amami-oshima island, Okinawa Islands and the East China Sea. However, the species has not been recorded from the Kagoshima mainland on the basis of voucher specimens. Thus, these specimens, described herein detail, represent the first specimen-based records from the Kagoshima mainland.

ハタ科ヒメハナダイ属 (Serranidae: *Tosana* Smith and Pope, 1906) は背鰭が通常 10 棘 14 軟条 (まれに 13 または 15 軟条) であること, 臀鰭が 3 棘 7 軟条であること, 胸鰭軟条数が 15–17 であること (通常 16), 胸鰭軟条の分枝パターンが多様であること, 尾鰭の分枝軟条が通常 7 + 6 であること, 側線鱗数が 33–41 で筒状であること, および鰓耙が比較的長く, 数は 8–11 + 22–26 = 32–37 であることなどによってハナダイ亜科他属と区別される (Gill et al., 2021). 本属は最近まで 1 種のみが知られていたが, Gill et al., (2021) によりオーストラリアから新たに 2 種が新種として記載され, 現在世界で 3 有効種が知られている (Gill

et al., 2021). 国内にはヒメハナダイ *Tosana niwae* Smith and Pope, 1906 のみが分布する (瀬能, 2013 ; Gill et al., 2021 ; 本村, 2021).

2010 年 7 月に志布志湾から, 2021 年 5 月に鹿児島湾からそれぞれ 2, 1 個体のヒメハナダイが採集された. 本種は琉球列島を含む南日本の広域から記録されているものの (Katayama, 1960 ; 肥後ほか, 1990 ; 瀬能, 2013 ; Nakae et al., 2018 ; 村瀬, 2021), 鹿児島本土における記録は, 目視記録に基づくもののみであった (肥後ほか, 1990). したがって, 志布志湾産と鹿児島湾産の標本は鹿児島本土における本種の標本に基づく初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Gill et al. (2019, 2021) にしたがった. 胸鰭軟条の分枝パターンの表記は Gill et al. (2021) にしたがった. 体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い, 計測値は体長に対する百分率で示した. 標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した. 形態の観察には実体顕微鏡を用いた. 生鮮時の体色は固定前に撮影された標本 (KAUM-I. 30807, 30904, 157095) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

Tosana niwae Smith and Pope, 1906

ヒメハナダイ

(Fig. 1; Tables 1, 2)

標本 3 個体 (体長 50.6–113.2 mm) : KAUM-I. 30807 体長 113.2 mm, KAUM-I. 30904, 体長 91.7 mm, 鹿児島県志布志市志布志湾 (31°38'N, 131°14'E), 水深 70–100 m, 2010 年 7 月 8 日, 底曳網, 荻原豪太・山下真弘・大橋祐太; KAUM-I. 157095 体長 50.6 mm, 鹿児島県鹿屋市高須川河口沖 (31°20'55"N, 130°44'92"E), 水深 76 m, 2021 年 5 月

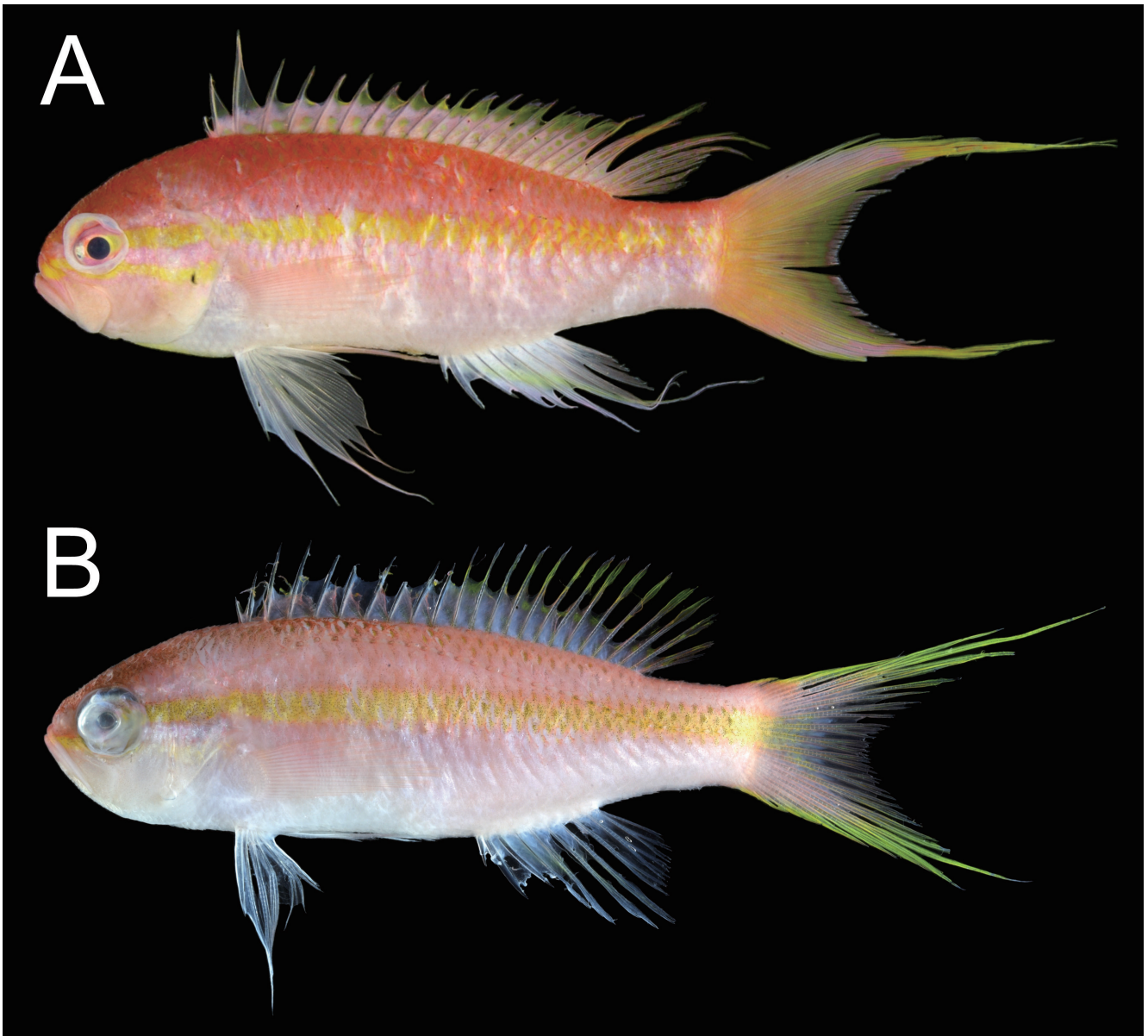


Fig. 1. Fresh specimens of *Tosana niwae* from Kagoshima mainland. A: KAUM-I. 30807, 113.2 mm SL, Shibushi Bay, east coast of Osumi Peninsula; B: KAUM-I. 157095, 50.6 mm SL, Kagoshima Bay.

14日、底曳網、大富 潤。

記載 計数形質と各体部の体長に対する割合を Table 1 に、胸鰭軟条の分枝パターンを Table 2 に示した。体高は低く、側扁する。吻は短く、丸い。口裂は端位で上顎後端は眼中央直下を超える。下顎前端は上顎前端よりわずかに突出する。鼻孔は2対。前鼻孔は楕円形で短い皮弁を持ち、吻端と眼窩前縁の中間に位置する。後鼻孔は細長い楕円形で、眼窩前縁に隣接する。眼径は吻長より大きく、円形。舌上に歯板はなく、舌尖は KAUM-I. 30807 では尖り、KAUM-I. 30904, 157095 ではやや丸みを帯びる。上顎前部にはわずかに後方に湾曲した犬歯状の上顎歯があり、KAUM-I. 30904 では1対、KAUM-I. 157095 では左側が1本、右側が2本ある (KAUM-I. 30807 では発達しない)。その内側後方には後方に倒れた犬歯状の上顎歯があり、KAUM-I. 30807 と KAUM-I. 30904 では左側が1本、右側が2本、KAUM-I. 157095 では1対ある。上顎歯の後

部は上記の犬歯状歯よりやや小さい2-3列の円錐歯となり (KAUM-I. 157095 では1-2列)、外側の歯が最も大きい。鋤骨歯は犬歯状歯よりはるかに小さい円錐歯で、口蓋部の前部に密に分布し、1歯帯を形成する。口蓋骨歯は鋤骨歯と同大の円錐歯で、鋤骨歯の後方に密に並び、1対の歯帯を形成する。下顎の前端付近にやや後方に湾曲した犬歯状歯を1対もつ (KAUM-I. 30904 では2対)。下顎歯列前部は2-3列 (KAUM-I. 157095 では1-2列) で、その直後に後方に湾曲した犬歯状歯を、KAUM-I. 30807 では左側が1本、右側が2本 (前方の歯はやや小さい)、KAUM-I. 30904 では1対、および KAUM-I. 157095 では2対もつ。それより後方の下顎歯列は犬歯状歯よりはるかに小さい円錐歯からなり、1-2列 (KAUM-I. 157095 では1列) に並ぶ。両顎の唇、峡部、および鰓蓋膜を除いた体全体が櫛鱗に包まれる。主鰓蓋骨上部には3本の棘をもつ。鰓耙は比較的長く、密に並ぶ。側線は主鰓蓋上部から始まり、尾鰭基底

Table 1. Counts and measurements of *Tosana niwae*. Means in parentheses.

	Japan				Vietnam	
	Kagoshima Prefecture		Kanagawa Prefecture		Khánh Hòa Province	
	Shibushi Bay <i>n</i> = 2	Kagoshima Bay <i>n</i> = 1	Sagami Bay <i>n</i> = 1	Tosa Bay <i>n</i> = 13	Nha Trang <i>n</i> = 1	
Standard length (SL, mm)	91.7–113.2	50.6	108.4	63.9–118.8		90.9
Counts						
Dorsal-fin rays	X, 14	X, 14	X, 14	X, 13–14		X, 14
Anal-fin rays	III, 7	III, 7	III, 7	III, 7		III, 6
Pectoral-fin rays	16	16	16	15–16		16
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5		I, 5
Principal caudal-fin rays	8 + 7	8 + 7	8 + 7	8 + 7		8 + 7
Branched caudal-fin rays	7 + 6	7 + 6	7 + 6	7 + 6		7 + 6
Cheek scales	8	7	8	7–9		8
Gill rakers	10 + 25 = 35	10 + 25 = 35	10 + 25 = 35	10–11 + 24–26 = 34–36		10 + 25 = 35
Lateral-line scales	37	36	35	32–37		36
Scale rows above lateral line	5	5	5	5		5
Scale rows below lateral line	14–15	14	15	12–15		14
Circumpeduncular scales	21–22	21	22	20–22		22
Pseudobranchial filaments	17–18	18	17	15–19		18
Measurements (% SL)						
Maximum body depth	30.9–32.5	29.8	33.0	29.2–33.2 (30.8)		31.4
Body depth at anal-fin origin	28.6–30.7	28.1	31.5	24.3–32.3 (28.6)		30.6
Caudal-peduncle length	22.6–23.1	19.8	21.5	18.1–23.1 (20.9)		24.2
Caudal-peduncle depth	14.6–16.1	13.2	15.5	13.0–16.0 (14.3)		15.1
Head length	28.2–29.1	29.6	30.1	28.5–30.7 (29.7)		30.3
Snout length	5.6–6.1	5.1	6.8	5.1–7.7 (6.5)		5.8
Orbit diameter	9.6–9.7	9.9	8.6	8.2–10.9 (9.7)		9.2
Interorbital width	6.9–7.0	6.7	7.3	6.5–7.9 (7.1)		7.7
Postorbital length	14.3–15.9	15.2	14.9	14.5–15.8 (15.1)		15.4
Upper-jaw length	14.4–14.9	13.6	14.6	12.9–14.8 (14.1)		14.6
Maxilla depth	6.7–7.0	6.7	6.9	5.6–7.3 (6.5)		6.8
Pre-dorsal-fin length	29.0–30.2	30.0	32.2	29.1–31.9 (30.7)		30.8
Pre-anal-fin length	59.7–62.9	60.1	61.5	58.8–63.9 (61.6)		61.5
Pre-pelvic-fin length	32.2–33.3	29.6	31.7	30.6–34.8 (31.8)		31.6
Dorsal-fin base length	58.0–59.4	56.3	59.6	55.4–60.6 (58.7)		58.6
1st dorsal-fin spine length	3.6–3.9	3.6	4.9	2.9–5.4 (4.0)		4.6
3rd dorsal-fin spine length	11.9–15.5	12.3	14.2	7.6–15.4 (12.3)		15.6
4th dorsal-fin spine length	11.1–11.7	11.5	12.2	8.9–12.8 (11.0)		12.5
10th dorsal-fin spine length	8.6–10.5	8.7	9.7	8.5–11.1 (9.6)		10.1
1st dorsal-fin soft ray length	10.4–11.5	11.3	10.1	10.7–12.6 (11.6)		11.6
Longest dorsal-fin soft ray length	20.5–27.0 (12th or 13th)	13.0 (12th)	25.6 (12th)	16.6–26.1 (11th or 12th) (20.0)		broken
Anal-fin base length	16.4–16.8	17.6	17.3	15.6–18.7 (17.0)		15.8

Table 1. Continued.

	Japan				Vietnam	
	Kagoshima Prefecture		Kanagawa Prefecture		Khánh Hòa Province	
	Shibushi Bay <i>n</i> = 2	Kagoshima Bay <i>n</i> = 1	Sagami Bay <i>n</i> = 1	Tosa Bay <i>n</i> = 13	Nha Trang <i>n</i> = 1	
Standard length (SL; mm)	91.7–113.2	50.6	108.4	63.9–118.8	90.9	
1st anal-fin spine length	3.7–4.6	4.7	4.4	3.6–7.8 (4.8)	5.5	
2nd anal-fin spine length	9.6–10.3	11.5	10.3	8.4–11.9 (10.1)	11.2	
3rd anal-fin spine length	11.1–11.2	11.7	11.3	10.6–13.4 (11.5)	11.1	
1st anal-fin soft ray length	15.0–18.2	15.2	14.5	12.9–17.8 (14.5)	12.5	
Longest anal-fin soft ray length	21.2–31.4 (4th)	23.3 (4th)	40.9 (4th)	19.7–33.4 (4th) (26.8)	27.9 (4th)	
Anal-fin length	30.1–41.0	31.0	51.2	29.9–44.4 (37.3)	37.4	
Longest pectoral-fin soft ray length	25.1–25.2	23.9	24.1	21.6–27.6 (25.8)	23.6	
Pelvic-fin spine length	14.5–14.8	15.4	14.4	13.1–15.5 (14.8)	15.1	
Pelvic-fin length	39.8–48.6	30.0	59.9	26.2–42.9 (33.7)	32.5	
Caudal-fin length	57.0–59.1	49.8	63.9	39.2–57.7 (48.6)	46.4	
Caudal concavity	42.7–47.0	35.6	47.2	23.3–42.0 (33.3)	32.7	
Upper caudal-fin lobe length	59.0–60.4	49.4	57.6	36.6–59.7 (49.3)	55.3	
Lower caudal-fin lobe length	50.7	39.9	68.6	29.2–57.3 (43.4)	41.5	

に達する。側線孔は鱗の前後方向に伸び、管状となる。側線鱗の後縁は小棘をもつ。背鰭起部は胸鰭基底直上に位置する。背鰭第3棘が最も伸長し、背鰭棘条部の鰭膜は浅く切れ込む (KAUM-I. 30807 では背鰭第1棘から第6棘にかけてはやや深く、第6棘から第10棘にかけては浅くなる)。背鰭軟条は第12–13軟条が最も伸長する。臀鰭起部は体中央よりやや後方に位置する。臀鰭軟条は第4軟条が最も伸長する。胸鰭基底上端は鰓蓋後縁直下よりやや前方に位置し、胸鰭後端は背鰭第1軟条直下に位置する。腹鰭起部は背鰭起部直下よりわずかに後方に位置する。畳んだ腹鰭の後端は臀鰭起部に達する (KAUM-I. 157095 では臀鰭起部に達さない)。尾鰭は深い湾入形で、両葉はよく伸長する。各鰭軟条部は糸状に伸長する (KAUM-I. 30904 では背鰭、腹鰭、および尾鰭のみ、KAUM-I. 157095 では腹鰭と尾鰭のみ)。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) 一体は体側上半部で赤みの強い赤橙色であり、体側下半部では赤桃色がかった白色を呈する。眼後部から体側中央、および尾鰭基部やや背側にかけてと上顎から眼下縁、および鰓蓋後縁にかけての2本の明るい黄色の縦帯がある。頭部側面上半は赤みの強い赤橙色で、下半部では赤橙色がかった白色を呈する。背鰭鰭膜の地色は白色がかった赤桃色であり、鰭膜縁辺は緑みがかった黄色を呈する。背鰭鰭膜には基底から縁辺にかけて不明瞭な赤紫色に縁どられた (KAUM-I. 157095 は縁どられない) 緑みがかった黄色斑がいくつか並び、背鰭の後部ほど多い。臀鰭の地色は淡い桃色を帯びた白色であり (KAUM-I. 157095 では白色半透明)、臀鰭第3棘基底付近から臀鰭第4–5軟条の先端にかけて不明瞭な緑みがかった黄色の線が1斜線ある。胸鰭は薄い赤橙色。腹鰭は白色半透明 (KAUM-I. 30807 では腹鰭第2軟条から第5軟条にかけての後端は薄い赤橙色を呈し、KAUM-I. 30904 では第3軟条の先端が薄い赤橙色を呈する)。尾鰭基底中央から尾鰭後端にかけては明るい黄色 (KAUM-I. 30807 では橙色) で、その上方と下方は白色がかった赤桃色を呈する。尾鰭両葉の上縁、下縁、および後端は緑みがかった黄色を呈する。尾鰭中央後縁は濃い赤色 (KAUM-I. 157095 では尾鰭中央後縁付近は白色半透明)。虹彩は上部と下部が白色がかった赤桃色であり、前部は白色、後部は明るい黄色を呈する。

分布 日本、中国、および台湾から記録されている (Gill et al., 2019)。国内においては富山県、島根県、山口県、および長崎県の日本海・東シナ海沿岸、神奈川県、静岡県、三重県、和歌山県、高知県、および宮崎県の太平洋沿岸、鹿児島湾、奄美大島、沖縄諸島、および東シナ海大陸棚縁辺から記録されていたが (Katayama, 1960; 肥後ほか, 1990; 瀬能, 2013; Nakae et al., 2018; 村瀬, 2021; 本研究)、本研究によって新たに鹿児島県の志布志湾 (大隅半島東岸)

から本種が記録された。

備考 鹿児島県本土産の標本は背鰭が10棘14軟条であること、臀鰭軟条数が7であること、体長に対する臀鰭最長軟条長が21.2–31.4%であること、胸鰭軟条数が16であること、体長に対する胸鰭長が23.9–25.2%であること、側線有孔鱗数が36–37であること、尾柄周囲鱗数が21–22であること、尾鰭が深い湾入形であること、舌上に歯板がないこと、鰭や体に円形黒色斑が散在しないことなどの特徴が瀬能(2013)とGill et al. (2021)が示した *Tosana niwae* の特徴に一致したため本種に同定された。Gill et al. (2021)によって記載された *T. longipinnis* と *T. dampieriensis* の2種は *T. niwae* と比較して、前者は胸鰭長が28.9–35.3%であること、側線有孔鱗数が33–41(通常37–40)であること、および臀鰭最長軟条長が23.8–52.2%であることにより、後者は尾柄周囲鱗数が24であることと胸鰭長が28.4–28.9%であることの組み合わせにより *T. niwae* と識別される(Gill et al., 2021)。

Tosana niwae の舌先の形態(尖るか丸いか)は種内で変異に富むとされている(Gill et al., 2019: fig. 3)。本研究で調査した18標本においても、舌先が尖る個体(KAUM-I. 30807, 81810, 81811, 81812, 100777, 117517, 147690, 151285: 体長66.0–118.8 mm)、丸い個体(KAUM-I. 44129: 体長68.0 mm)、およびその中間を示す個体(KAUM-I. 30904, 42846, 42847, 53575, 81813, 150154, 157095: 体長50.6–98.3 mm)が確認された。

本研究で調査した18標本のうち、16標本において背鰭最長棘は第3棘であったが、KAUM-I. 81810とKAUM-I. 81812の2標本は背鰭第3棘が歪曲しており、背鰭最長棘はそれぞれ第7棘と第9棘であった。Gill et al. (2021)は *T. niwae* では第3–4棘が最長であるとしていることから、上

記の2標本の背鰭棘は奇形であると考えられる。

ヒメハナダイ18個体の胸鰭分枝軟条数をTable 2に示した。オシャレハナダイ *Plectranthias pelicieri* Randall and Shimizu, 1994などの多くのハナダイ亜科魚類において、分枝軟条数が成長に伴い増える傾向にあることが知られているが(Randall and Shimizu, 1994; 瀬能・湯野川, 1995; 瀬能, 2013)、ヒメハナダイにおいては成長に伴う分枝軟条数の増加の傾向が認められなかった。

肥後ほか(1990)は鹿児島湾の垂水市終原沖230 m(水深37 m)と930 m(水深34–42 m)、および始良市重富沖400 m(水深30–40 m)に設置された漁礁においてヒメハナダイが複数個体観察されたと報告したが、この記録は潜水による目視記録であり、証拠写真や標本が示されていない。よって、本研究で記載した鹿児島湾産の標本は鹿児島湾における本種の標本に基づく確かな記録となる。また、志布志湾産の標本は大隅半島東岸における本種の初めての記録となる。

比較標本 ヒメハナダイ *Tosana niwae*, 15標本(体長63.9–118.8 mm)。神奈川県: KAUM-I. 147690, 体長108.4 mm, 小田原市沖(小田原漁港にて購入), 2020年10月15日, 釣り, 古橋龍星。高知県: KAUM-I. 12909, 体長84.4 mm, 高知市御置瀬浦戸沖(33°29'N, 133°34'E), 水深100–200 m, 2008年3月9日, 底曳網, 荻原豪太・目黒昌利; KAUM-I. 42846, 体長75.6 mm, KAUM-I. 42847, 体長73.2 mm, 黒潮町佐賀沖(32°27'36"N–33°02'24"N, 132°33'36"E–133°07'48"E), 水深62.9–91.9 m, 2011年11月9日, 底曳網, 高知県水産振興部土佐清水漁業指導所; KAUM-I. 44129, 体長68.0 mm, 黒潮町入野沖(33°00'N, 133°01'E), 水深50–100 m, 2011年12月15日, 底曳網, 松沼瑞樹・中山直英; KAUM-I. 53575, 体長98.3 mm, KAUM-I.

Table 2. Pectoral-fin ray branching pattern in *Tosana niwae*.

Locality	Catalog number	SL (mm)	Right side	Left side
Kagoshima Prefecture	KAUM-I. 157095	50.6	broken	ii,3,xi
Kochi Prefecture	KAUM-I. 81813	63.9	ii,5,ix	ii,5,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 81811	66.0	ii,4,x	ii,4,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 44129	68.0	ii,4,x	ii,5,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 42847	73.2	ii,4,x	ii,5,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 42846	75.6	ii,5,iv,1,iii	ii,5,v,1,ii
Kochi Prefecture	KAUM-I. 100777	76.4	i,6,v,1,iii	ii,5,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 150154	83.3	ii,5,viii	ii,4,ix
Kochi Prefecture	KAUM-I. 12909	84.4	ii,5,viii	ii,5,viii
Kochi Prefecture	KAUM-I. 81810	84.5	ii,5,viii	ii,4,ix
Khánh Hòa Province (Vietnam)	KAUM-I. 117517	90.9	ii,6,iii,3,ii	ii,6,iii,3,ii
Kagoshima Prefecture	KAUM-I. 30904	91.7	ii,6,viii	ii,6,viii
Kochi Prefecture	KAUM-I. 53576	97.7	ii,6,iv,2,ii	ii,6,iii,5
Kochi Prefecture	KAUM-I. 53575	98.3	ii,5,viii	ii,5,iv,1,iii
Kochi Prefecture	KAUM-I. 81812	105.8	ii,3,xi	iii,1,xii
Kanagawa Prefecture	KAUM-I. 147690	108.4	ii,6,ii,6	ii,8,ii,5
Kagoshima Prefecture	KAUM-I. 30807	113.2	ii,4,v,3,i	ii,6,ii,1,ii,2
Kochi Prefecture	KAUM-I. 151285	118.8	ii,6,iv,2,ii	ii,6,iii,5

53576, 体長 97.7 mm, 黒潮町沖 (32°55'13"N-32°54'42"E, 133°06'50"E-133°00'29"E), 水深 95–120 m, 2013 年 3 月 22 日, 底曳網, 高知県水産振興部土佐清水漁業指導所; KAUM-I. 81810, 体長 86.5 mm, KAUM-I. 81811, 体長 66.0 mm, KAUM-I.81812, 体長 105.8 mm, KAUM-I. 81813, 体長 63.9 mm, 黒潮町佐賀沖土佐湾 (33°03'N, 133°08'E), 水深 80–120 m, 2016 年 6 月 3 日, 底曳網, 松沼瑞樹; KAUM-I. 100777, 体長 76.4 mm, 高知市浦戸湾沖土佐湾 (33°29'N, 133°34'E), 水深 150 m, 2012 年, 底曳網, 松沼瑞樹; KAUM-I. 150154, 体長 83.3 mm, 黒潮町佐賀沖土佐湾 (33°03'N, 133°08'E), 水深 80–120 m, 2016 年 11 月 12 日, 底曳網, 松沼瑞樹・佐藤真央; KAUM-I. 151285, 体長 118.8 mm, 高知市浦戸沖 (33°29'N, 133°34'E), 水深 200 m, 2008 年 3 月 28 日, 底曳網, 中山直英・松沼瑞樹. ベトナム: KAUM-I. 117517, 体長 90.9 mm, カインホア省ニャチャン沖 (12°15'N, 109°11'E), 2018 年 7 月 25 日, Nguyen Van Quan.

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 幅野明正船長をはじめとする鹿児島大学水産学部附属練習船南星丸の皆様には採集にご協力いただいた。鹿児島大学大学院農林水産学研究科の古橋龍星氏と是枝伶旺氏には適切な助言をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本作成にご協力頂いた。Ichthy の担当編集委員の和田英敏氏には原稿に対して有益な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (19K02297・20H03311・21H03651), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM

JPJSCCB20200009), および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。ベトナム産の標本は鹿児島大学総合研究博物館, ベトナム海洋環境資源研究所, およびハロン湾管理委員会の共同研究協定に基づき, ベトナム天然資源環境省環境総局生物多様性保全局の許可のもと採集された。

引用文献

- Gill, A. C., W. D. Anderson Jr and J. T. Williams. 2019. *Anthias albofasciatus* Fowler and Bean, 1930, a junior synonym of *Tosana niwae* Smith and Pope, 1906 (Teleostei: Serranidae: Anthiinae). *Zootaxa*, 4614: 566–574.
- Gill, A. C., J. J. Pogonoski, J. W. Johnson and Y.-K. Tea. 2021. Three new species of Australian anthiine fishes, with comments on the monophyly of *Pseudanthias* Bleeker (Teleostei: Serranidae). *Zootaxa*. 4996: 49–82.
- 肥後伸夫・柿本 亮・清水 博・Plotner David・吐師 弘・上水樽豊己. 1990. 潜水観察による人工魚礁の実態について—XX 鹿児島湾奥沿岸海域の場合. *南太平洋研究*, 11: 51–67.
- Katayama, M. 1960. *Fauna Japonica. Serranidae (Pisces)*. Biogeographical Society of Japan, Tokyo. viii + 189 pp., 86 pls.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- Randall, J. E. and T. Shimizu. 1994. *Plectranthias pelicierii*, a new anthiine fish (Perciformes: Serranidae) from Mauritius, with notes on *P. gardineri*. *Japanese Journal of Ichthyology*, 41: 109–115. [URL](#)
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏・湯野川恭. 1995. 西部太平洋から初記録のオシヤレハナダイ (新称). *伊豆海洋公園通信*, 6 (9): 4–6.
- Smith, H. M. and T. E. B. Pope. 1906. List of fishes collected in Japan in 1903, with descriptions of new genera and species. *Proceedings of the United States National Museum*. 31: 459–499. [URL](#)